

群馬のスポーツ人③

三宅 豊

ウインドミル投法とは腕を風車(ウインドミル)のように回転させる投げ方だが、この投法をいち早く採り入れたのが三宅豊なんだよ

三宅豊が新島学園高校のソフト部に入学した昭和四十一年ころは、アンダースロー投法が一般的だった。

もつと速い球を投げたいなあ

それなら腕を回して投げてごらん

私はアメリカ人の練習を見てきたが、彼らは腕を回転させて速い球を投げていたよ

岡賢先生

三宅豊はさつそく練習を始めたが、当時は解説書もなければ手本となる選手も近くにいなかった。

腕のまわし方が悪いせいかコントロールがつかない



かし今日までソフトボールに打ち込んでこられたのは、「ソフトはこれからのスポーツ。投法などを含めて、ソフトボールをつくっていくという気持ちが強かったから」と三宅さん。

母校で後輩の指導にあたりながら、現役として日本選手権へ16回目の出場を目指しています。

彼は腕の動きをたしかめるためバットを持って腕を回す練習をした。

この方法は腕の強化にもなったよ



ウインドミル投法で110*を超す速球を武器に全国高校選手権、全日本大学選手権、国体、全日本教員大会、日本選手権、全日本一般男子大会で優勝28回という成績を残したエースが三宅豊選手です。

三宅選手は昭和26年、安中市安中に生まれました。ソフトボールとの出会いは、新島学園高校の1年生のとき。ソフトボールは野球に比べマイナーで、女子のスポーツとしてのイメージが強いのも事実でした。

また、打球フォームを安定させるためプロックの上で打球をくり返し、バランスをとる練習もした。

こうした実績が認められた彼は、ソフトボール協会が昭和六十年に設けた殿堂制度第一号に選ばれた。

彼は現在母校のソフト部の監督として後進の指導にあたるかわら、群馬教員ソフトボールチームの現役投手としてがんばっているよ

彼の競技歴二十一年間の成績はこのようになっているよ

- ◎新島学園高校 優勝1回 ベスト8、2回
- ◎日本体育大学 優勝6回、準優勝1回
- ◎群馬教員ソフトボールクラブ 優勝21回、準優勝7回 計=優勝28回、準優勝8回(全国大会のみ)

すっすっ!!

高校を卒業後、日本体育大学に進学したが、そこでも投手として活躍!!

全日本大学選手権 4年連続優勝!!

大学卒業後は、母校の教員となり、群馬教員ソフトボールクラブで全日本教員大会、国体、日本選手権など計三十一回優勝の原動力となった。

こうして三宅流のウインドミル投法をつくりあげた彼は、一年生の半ばからマウンドに立つようになり、つぎの年の全国高校選手権で、新島学園ソフト部を初優勝に導いた。